

『万博での出会い』

クララ 加藤 良子

万博でのボランティア初日、私は朝早くリニモに乗りました。とても混んでいて、出入り口付近でふらふらしながら立っている、隣にいた若い娘さんが、自分の肩を指差して、掴りなさいという仕事をしました。見ると日本人ではなさだったので「万博の？」と聞きますと、「そうです。カンボジアの・・・」という返事が返ってきました。帰りにカンボジアのパピリオンに寄ってみようと思いましたが、その日はとても寒く、早々と家に帰ってしまいました。

暫くしてから、今度は主人と一緒にリニモに乗った時のことです。例のごとく、とても混んでいて、席に座ることが出来ませんでした。すると突然、主人の前に座っていた娘さんが立ちあがり、席を譲ってくれたのです。主人は「初めて席を譲ってもらった」と言ってくれたので、その娘さんの胸にはスタップの入場証がぶらさがって

おりました。そして、ふと目が合った時、お互いに「あつ」と声をあげました。先日、私に親切にしてくれた娘さんだったからです。話をしているうちに、寮と万博会場の往復以外は、まだどこにも行っていないことが判り、主人が、お札に名古屋を案内することになりました。

日を改めて、彼女の休日に、名古屋城（金のしゃちほこが下りていました）と東山動物園、そして足助などを案内しました。少しでも沢山、日本での想い出を持ち帰って欲しいという思いからです。私たち夫婦にとって、この小さな出来事が、万博を本当に想い出深いものにしてくれたのでした。

まだ続きがあります。今年のお正月に、私たちはカンボジアに行ってきたのです。今度は、帰国後ガイドになっていた彼女が、私たちを案内してくれたのは、言うまでもありません。実は、ビザを取るため、カンボジアの領事館に行ったとき、領事館の人から二十キロまでは手荷物扱いになるので、子供たちのために是非、古着を持っ

て行って欲しいと頼まれていました。急なことでしたので、とりあえず教会の皆さんからいただいた大人用のTシャツを持って、カンボジアに行き、幼きイエズスの修道女会に届けてきたことも、併せて報告させていただきます。

ほんの、ちよつとした交流や小さな親切が、こんな大きな想い出をプレゼントしてくれました。お礼状をくださったシスターは日本とカンボジアを行ったり来たりされており、なかなか連絡がつかないですが、カンボジアの子供たちに、また何かしてあげたらと思っております。



「不思議発見シリーズ」
← これは城北橋教会の聖堂内にある洗礼盤ですが、八角形の形をしています。どうして八角形なのでしょう？次のページで紹介します。